

キミも宇宙兄弟 ～ドキドキ夢体験～

1 ねらい

- 天文を学習する小学校4年生から中学校3年生を対象に、体験活動を中心とした天文学習を行う
- 宇宙に夢を求めた人々の生き方を参考にして、「夢を実現させること」について考えを深める
- グループでさまざまな課題を解決する過程において、「仲間との絆」や「人間関係形成力」「コミュニケーション能力」を育てる

2 期日

平成30年 9月15日(土)～16日(日)【1泊2日】

3 対象

小学生4年生～中学生3年生

4 参加人数／募集人数

14名／24名


5 講師・スタッフ

国立立山青少年自然の家職員 2名、法人ボランティア 8名
国立宇宙航空研究開発機構(JAXA)職員 1名

6 主催 国立立山青少年自然の家

7 後援 富山県・新潟県・石川県教育委員会、立山町教育委員会、北日本新聞社

8 日程

	午前	午後	夜
9月15日(土) 1日目	受付 開講式 オリエンテーション アイスブレイクゲーム	宇宙の神秘を学ぼう (Mi I) 宇宙船室をつくろう (Mi II) 宇宙食をつくって食べよう (Mi III)	「JAXA」に勤務している方の話を聞こう (Mi IV) 星空を眺めよう (Mi V)
9月16日(日) 2日目	「キミは地球の危機を救えるか…」(グループ討議) (Mi VI) 脱出ゲームに挑戦(グループ体験活動) (Mi VII) 「プログラミング体験しよう」(Mi VIII)	「2日間の自分たちを振り返ろう」(Mi IX) 「自分のこれからの夢について語ろう」(Mi X) 閉講式	



9 参加者からの感想

- JAXAの人のお話がとても興味深かった。宇宙のことは小さい頃から好きで、いろいろ知っているつもりだったけれど、知らなかったことをたくさん教えてもらった。
- みんなで協力すれば難しいこともできるということがわかった。プログラミング体験では、最初はとても難しそうだったけれど、いろんな人に教えてもらってプログラムのしくみがわかった。みんなが助けてくれてとてもうれしかった。来年もぜひ来たい。

10 成果

- 本事業は、宇宙や宇宙開発について興味・関心をもつことに主眼をおくため、課題解決型体験活動を中心に据えた。参加者は、とても意欲的に活動に取り組んでいた。
- 今回は、プログラミング体験を取り入れた。参加者は、興味をもって取り組んでいた。また、ドローンの操作体験も行い、宇宙開発で生まれた先端技術が、身近な生活で活用されていることを体感することができた。

11 今後の課題

- 活動内容が過多であった。参加者が無理なく活動を楽しめるように内容を精選する必要がある。
- 準備や後片付けをボランティアに頼ってしまう場面が多く、参加者の自主性を育てられなかった。
- 2年連続、募集人数の定員に達していない状況を踏まえると、広報の仕方や活動内容を見直す必要がある。